

STAGE+を楽しむ(156)(HP 収載)

—モーツァルトの《レクイエム》—

1. 始めに

前報(155)に引き続き、STAGE+のモーツァルトの《レクイエム》の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、カラヤンが指揮したモーツァルトの《レクイエム》の演奏を選びました。

カラヤンが最晩年に指揮したモーツァルトの《レクイエム》

ウィーン・フィル (1986 年)

収録日: 1986 年 6 月 2 日

本映像にはヘルベルト・フォン・カラヤンが最晩年に取り組んだモーツァルトの《レクイエム》の演奏が収められています。カラヤンは、60年代と70年代にベルリン・フィルと組んで同曲を録音していますが、それらとこの映像では全くアプローチが変わっています。オーケストラがウィーン・フィルなので音色自体も違いますが、それまでオペラ的な性格を帯びた劇的な演奏だったのに対し、この演奏では最晩年だからこその枯淡の境地ともいえるものが聞こえてきます。

ソリスト:

ヴィンソン・コール (テノール)、アンナ・トモワ=シントウ (ソプラノ)、パータ・ブルチャーゼ (バス)、ヘルガ・ミュラー=モリナーリ (アルト)

演奏:

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン楽友協会合唱団

指揮:

ヘルベルト・フォン・カラヤン

曲目:

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト レクイエム ニ短調 K. 626



3. 試聴の経過

前回に引き続き、スピーカーアキュライザーの位置を変更し、スピーカーアキュライザーからのバイワイアリングケーブルにケーブルチューナーを装着し、ルーター→スイッチングハブ→PCの2本のLANケーブルにLANアキュライザーを使用しています。さらに、スイッチングハブに光城精工の仮想アース Crstal EpL を接続し、ルーターに自作の仮想アースを接続しています。

また、CDクリーナーの効果(9)で報告しましたようにPCのストリーミング再生において、PCの液晶画面とLAN iSilencer とルーターに対するCDクリーナーの処理を行い、スイッチングハブとルーターのLANポートにフェルトダンプ端子を装着しています。さらに今回から、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施しています。

カラヤンらしい統率のとれた完璧を期するような演奏で、オーケストラもソリスト達の歌唱も1986年のライブ収録とは思えないほどの明晰な音です。

こういう歴史的遺産の映像が、LANアキュライザーやアースアキュライザーのおかげで、配信サイトから容易に、かつ満足すべき音質で試聴することができるようになったことはありがたいことです。



4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、LAN ポートにフェルトダンプ端子を装着し、さらに Brooklyn DAC+と仮想アース Crystal E との接続にアースアキュライザーを使用するなどアースラインの再構成をしたことで、1986 年の収録とは思えないほど、オーケストラもソリストも歌唱も明晰です。

以上